JEGニュースレター132号

www.jegschweiz.com　　２０１３年２月２６日発行

小さな証

３年半のスイス留学中、忠実に礼拝を守られた音楽家・呉允栄（おう・ゆんにょん）姉は、在日三世。その半生を振り返っての証です。

安藤廣之牧師を迎えて

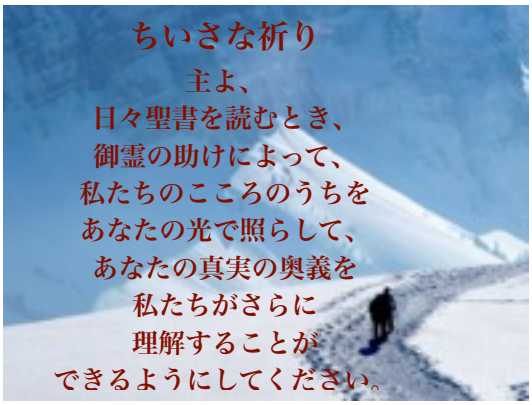
２月は、ミュンヘン日本語教会の安藤牧師をお迎えし、家庭集会、セミナー、礼拝と沢山御奉仕いただきました。

JEG20周年記念誌

今年創立２０周年を迎えるスイスJEGの記念誌発行に向けて２月１０日第一回編集委員会が持たれ、一歩を踏み出しました。

家の教会

オランダJCFは２月２４日に解散し、１９９５年の設立以前の形に戻りました。その一つ、オランダ南部キリスト教会の設立の様子を金子進兄がレポートしてくださいました。　Ｐ５



神、その道は完全。主のみことばは純粋。主はすべて彼に身を避ける者の盾。まことに、主のほかにだれが神であろう か。私たちの神を除いて、だれが岩であろう か。この神こそ、私に力を帯びさせて私の道を完全にされる。　詩篇１８篇３０−３２節

神のみことばに耳を傾ける、
ひとりの、日々の聖別された、静まりの時間
デボーション・・直ぐな心とともに・・

神がわたしたちに語ってくださるとき
わたしたちへの神の愛を感じられるとき
神のみこころに従おうと決心するとき
神ご自身を現してくださるとき
私たちのこころを注ぎだすとき
神との対話のとき

それが　至福の喜び
それが　私たちの生きる、すべての源

ちいさな証

在日韓国人三世として

呉允栄
おうゆんにょん
在日大韓国基督教会会員

私はクリスチャンの家庭に生まれ、幼い頃から両親と共に在日大韓基督教会へ通っていました。この教会は、教会員のほとんどが私と同じ在日韓国人もしくは韓国からの移住者で、礼拝は日本語と韓国語の両方で行われます。韓国にある教会との交流も盛んで、学生同士の交わり等を通して韓国の文化に触れる機会もあります。教会に通う学生の集まりも多く、同じ文化的・民族的背景を持つ同世代の友人と交流を持つ事が出来ました。教会での様々な集まりや交流を通して、幼い頃から自然と自分が在日韓国人であるという事を認識していたように思います。

在日韓国人二世として日本に生まれ育った両親は、本名と日本名の両方を持ち、時に差別を受ける中「どうして自分は韓国人に生まれたのだろうか」と恨めしく思う事も多々あったそうです。しかし、そのような状況の中でも在日として強く誇りを持って生きていって欲しいという願いのもと、私達兄弟三人は本名だけを与えられました。私は小学校からずっと日本の学校で学び、小学生の頃はごく稀に「変な名前」「韓国人」とからかわれましたが、それほど苦痛に思いませんでした。当時は幼すぎて分かりませんでしたが、今振り返ると、教会生活や他の在日韓国人との交流の中で、自分が在日である事を自然と受け入れ、「クラスメイトとは違って当然」と感じていたのだと思います。

自分が在日である事、そして自分のアイデンティティについて、子供の頃は深く考える機会はあまり多くありませんでした。もちろんこれは、両親の世代とは違って、これまで日本で在日として不自由なく生きてこられたおかげでもあります。しかし高校生の頃、アメリカに留学していた姉の話を聞き、少し考えさせられる事がありました。姉は高校からアメリカに留学し、現地の学校で勉強していました。アメリカでは自分の出自を説明する時は、Korean Japaneseと説明します。日本で生まれ育った韓国人で、名前は韓国の名前だと伝えると、それを聞いたアメリカ人は特に大きな反応も無く受け入れます。日本であれば、「国籍は？」「日本語上手だね。いつから日本にいるの？」等、様々な質問をされます。「じゃあ、結局日本人って事だね。私達と同じだね。」と言われた経験も非常に多いです。ところがアメリカでは、そういった質問は全く無いそうです。アメリカは多民族国家で、ありとあらゆる国からの移民が生活しています。その為、それぞれが違った人種的、文化的背景を持っている事が当たり前で、それらを全てひっくるめて「アメリカ人」と呼ぶからです。この話を聞いて私は、「私は日本人でも韓国人でもなく、在日韓国人。そのままで良いんだ。こういう他と違ったアイデンティティがあっても良いんだ。」と、目の前が急に明るくなったように感じました。

一つ、高校生の時に体験した印象深いエピソードをご紹介します。高校の研修旅行でウィーンに行った時、学校がパスポートを一時的に管理していた為、事前にパスポートを提出していました。そして空港でパスポートを返してもらう時、担任の先生が私を含めた韓国籍の生徒三人にのみ、他の生徒から隠れるようにこっそりと返却してきたのです。恐らく、クラスメートの中に自分が在日韓国人である事を隠していた生徒がいたのでしょう。先生なりの気遣いだったのでしょうが、「私の国籍は、隠さなければいけないようなものなのか…」と、自分の存在を否定されたようでショックを受けました。日本社会の中で、自分だけが「異質な」存在であるという事で、自身の拠り所が無いような、不安な気持ちになる時もありました。しかし、教会で同じ境遇の友人と過ごす機会を持つ事で、同じ思いを持つ仲間がいると心強く思い、不安を解消する事が出来ました。

日本では当たり前のように通っていた教会でしたが、私はスイスに留学して初めて本当に主と向き合い、全てを委ねる事が出来たと思っています。外国で一人で生活をする中、日々の暮らしの中にいつも主がいて下さる事を実感し、再認識しました。ウスターでの礼拝と賛美、お聞きしたすばらしいメッセージ、温かい皆様に支えられて恵まれた教会生活を送れた事を心から感謝致します。本当にありがとうございました。

呉 允栄姉はピアニストとしてスイスに留学され、３年半スイス教会でお交わりを頂きました。同じ音楽家の澤田恵さんを昨年９月の洗礼まで親友として導かれました。

１、２月１０日のスイスJEG礼拝には、２０１０年秋に続いてミュンヘンから安藤廣之牧師をお迎えしました。礼拝前日の土曜日には、ドイツ・メアスブルグの家庭集会にて、２名の求道者を含む参加者に伝道的なメッセージをされました。

また、礼拝に先立ち１時半から司会奉仕者ならびに世話人会希望者を対象に”司会と奉仕”をテーマにローマ人への手紙１２章１–２をベースにレクチャーをしていただきました。礼拝では、安藤牧師は「そこにいる神」をテーマにヨハネ６章16-２１節から解き明かしされ、２１世紀に生きる私たちにその適用を教示して下さいました。安藤牧師のメッセージは、スイスJEGの説教専用サイトからお聴き戴けます。
http://jeg.meielisalp.ch

独メアスブルグでの家庭集会

スイス日本語福音キリスト教会の皆様へ、

この度、2月の9日、10日とMeersburg家庭集会、役員会、礼拝に於いてご奉仕の機会を頂けたこと、心から感謝申し上げます。今回の奉仕を通しては「多様性の祝福」というものを感じ、使徒の働きのアンテオケ教会のことを思いました。個性豊かな人達が、頭なるキリストにあって一つの体になることで、この世にイエス様が証しされると思います（１コリント１２；１２等）。過渡期にあってこそ、お互いに異なる兄弟姉妹との間にある主の愛が問われ、輝くものと思います。教会の更なる成長と祝福をお祈りしています。

安藤廣之

２、スイスJEGは今年創立２０周年を迎えます。その記念事業の一環として計画された記念誌発行の第一回編集委員会が２月１０日に持たれました。松林兄を編集長に、中村兄と今村姉が編集委員、そしてクスター姉とトムセン・チャーリー兄をサブ編集委員として、１１月２４日の創立２０周年記念礼拝日の発行を目標に第一歩を踏み出しました。

２０年前の創立にあたって、スイスにも日本語教会をと、使命感と情熱を持って立ち上げに邁進された宣教師と在スイス邦人クリスチャンのお働きに感謝し、それらの人材を用いることによって教会創立を成し、２０年の長きに渡って教会を導き祝福して下さった主なる神さまに栄光をお返しするのが記念誌発行の目的です。なお、記念誌の印刷は、支援と励ましを与えたいという編集員の願いによって、津波による壊滅的打撃から立ち上がった気仙沼市のキリスト教系印刷所に発注される予定です。

２月１０日、２４日の愛餐会スナップ

３、1月２７日の第２０回スイスJEG総会によって承認された役員会提案の教会予算十分の一献金の送金作業が、２月末、会計によって無事完了致しました。献金先は、昨年と同じく、ウィーン教会高木攻一牧師（２年間の支援会の活動が２月で終了しましたがスイスJEGではウィーン教会を引き続き支援することに決定しました。）宮城県の神学生・菊地祥彦兄、日本国際飢餓対策機構www.jifh.org、内村伸之牧師、そして新しくキャンパス・クルセードで働かれるブラザー直美姉が加わりました。なお、高木功一牧師からの礼状が”ヨーロッパの日本語教会から”コーナーに掲載されていますのでお読みください。

４、２月２４日（日）第一回牧師招聘委員会が１時半から２時４５分まで開かれ、ゲルスタ牧師の後任牧師招聘にむけて、第一歩を踏み出しました。これは、第一回役員会においてゲルスタ牧師の意向を受けて発足したもので、役員５名に、聖書学を神学校に於いて学ばれたフォンプランタ美和子姉、フォンプランタ・コニー兄とヴァイランド千佳姉に加わって頂き発足したものです。欧州の多くの日本語教会が無牧である現状から招聘作業は難航が予想されますが、”神にできないことはない”のみことばを信じて心を合わせて招聘作業を進めていきたいと願っております。どうか、祈りによるお支えをお願いします。

５、牧師招聘委員会と同時刻に、新世話人による第一回世話人会が開催され、会長に今村葉子姉を選任した後、教会運営のための様々な奉仕ならびに運営、そして今後の活動計画について話し合われました。多くの尊いご奉仕に感謝します。

６、３月２２日（金）１７時から、フランス・ストラスブール(7 Avenue de la Forêt-Noire, 67000 Strasbourg)において「聖書のお話を聴く会」が、内村伸之牧師をミラノから講師としてお迎えし開かれます。また、翌日３月２３日（土）１５時からも、スイス・オルテンの今村家において、内村牧師をお招きして家庭集会が持たれますので、お誘い合わせの上ご参加ください。なお、詳細は今村泰典兄yimamura1019@gmail.com　にお尋ねください。

７、ミラノ賛美教会とスイス教会の合同修養会は６月７日（金）から９日（日）までテシン州アスコナ、マジョーレ湖畔に建つキリスト教系ホテル、カサ・モシャ　Casa Moscia http://www.casamoscia.ch/で、内村伸之ミラノ賛美教会牧師ならびに中野雄一郎牧師（マウント・オリーブ・ミニストリーズ）を講師に迎えて開催されます。このニュースレターにフライヤーならびに参加申し込み用紙を添付しますのでご利用ください。締め切りは４月３０日ですが、部屋数に限りがありますので、早めの予約をお勧めします。問い合わせならびに申し込みは今村泰典兄まで。yimamura1019@gmail.com

８、オーニンガー宣教師、クンツ・プリシラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師からのRundbrief　、工藤篤子メールマガジン１９１号および季刊ニュースレター４９号、井野葉由美メルマガ９６号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、夜越山祈りの家月報届いています。お読みになりたい方は，松林までご一報下さい。

神の国の前味

『スイス日本語福音キリスト教会』の群れ

ロンドンは
日本語改革派キリスト教会
小川洋牧師から

スイスの日本語教会を初めて訪れて、改めて知ることが多くありました。

①この教会はスイスに唯一の（月に二回の礼拝をもつ）日本語キリスト者の群れであるということ。そのため、スイスのドイツ語圏を中心に、国内何百キロと離れたところから、また、国境を越えてドイツからも来会されるということに、島国（日本と英国）にしか住んだことのない私にとっては驚きでした。

いわゆる巡礼とは全く違う意味で、まさに‘神の国’の礼拝と交わりを慕い求め、まるで‘天路歴程’をして、遥々（はるばる）主日礼拝のために教会に来られるような印象を持ちました。本当に礼拝にかける思いの深さを慮（おもんぱか）り、その信仰に感動しました。

②多くの家庭集会、あるいは単発的な集まりが臨機応変に形成されるということ。礼拝プログラムに「家庭集会のご案内」があり、そこには教会が承認し把握している家庭集会が６つ記されています（ここにも、隣国の地・ドイツにまで‘手’が延ばされている！）。この数は、これからさらに増えると想像します。

大きな「教会“連邦”」の中の「“衛星”伝道所」のように、宣教の使命を持っている方が、どんどん積極的に開催されると良いと思います。距離的に離れれば離れるほど、その重要性が増します。しかし、核は教会とそこでの全員による礼拝です。

③民族を超えたあらゆる年齢層の男女が、バランス良くおられるということ。この現実は、教会の中に一つの家族意識を、高めることに有意義に働いていると思います。

日本語教会が、実際、日本人教会になりがちですが、日本に縁（ゆかり）のある元宣教師らが複数居られ、十分にその賜物を活かし、また、通訳を介して伴侶や子供たちにも居場所を与え、また、ドイツ語でCSを行っておられるのは、新鮮な驚きでした。目から鱗が落ちたように思いました。

ヨーロッパの日本語キリスト者の群れは、いずこも独自の特徴がそれぞれにあると覚えますが、スイスの場合、以上の特徴がこれからも長所として、さらなる教会形成に前進して行かれるように願いお祈りいたします。そのために、教会運営の中心となる牧師と役員が、いつも連絡を取り合って、教会の群れ全体の連絡網の繋がりを強くされる（すでにそうなっておられると思いますが）ことが大切かと存じます。

インターネットの普及により、連絡は以前とは比較できないほど容易になりましたが、人と人との繋がりは、やはり顔を間近に見て、肉声を聞くことによって深い心の交流がなされると信じます。お仕事を持ちながら、役員を務められるのは本当に、献身の信仰がなければできませんので、大変なお役目ですが、牧師と協力して、御自分の地域以外の「“衛星”伝道所」である家庭集会に足を運ぶことも、そのお仕事の一つではないかとも思います。それが、教会全体としての牧会に繋がるのではないでしょうか。

勝手な感想を述べましたが、一回訪れただけでは、見えない御苦労や問題も、ほかの地上の教会同様あるのだと思います。いずれにしても、主の教会を支えてくださるのは、主なる神様だけでありますから、教会が神中心の信仰を崩されないように、これからも歩まれますように心からお祈り申し上げます。お交わりを感謝しつつ、主の御名を崇めます。

柔軟性に富んだ礼拝

『スイス日本語福音キリスト教会』に招かれて

ウィーンは
日本語キリスト教会
高木攻一牧師から

スイス日本語福音キリスト教会の皆様へ

主の御名を賛美します。

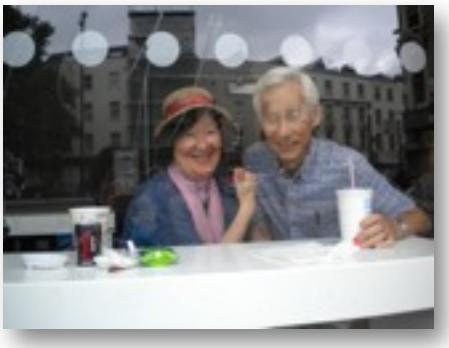
昨年１１月２５日には、皆様のお招きを頂き、妻と共に皆様の主日礼拝にご奉仕がゆるされ、心から嬉しく感謝しております。その折にウィーンに訪ねてきていた次女も同席でき、三人で賛美のご奉仕もかない、私たちにとっては忘れ難い楽しい思い出となりました。

貴教会へのご奉仕の端緒は、私たちのウィーン日本語キリスト教会が無牧時代に、欧州各国の牧師や信徒の方々、またかつての日本への宣教師の方々が手弁当で訪問されては激励して下さったことで、どれほど恩恵を受けてきたかを想い、月に一度は求められれば、牧師が出張奉仕をさせていただこう、その時には教会員が交替して礼拝の奨励を引受けよう、ということでした。

私たちが初めて今回、貴教会をお訪ねし、スイスにおいて日本語教会が２０年余を経てどんなにか素晴らしく成長発展して来られたのかを目の当りにし、ただただ主の御名を崇めたものです。

日本に永く宣教に従事なされたOB宣教師の方々の背後の暖かい霊的なご支援、日独通訳による国際結婚なされたカップルへのご配慮、あらゆる年齢層の方々がなごやかに交わり、柔軟性に富んだ礼拝の営みをなされておられる有様に深く感動させられました。

スイス各地の遠方から来会される方々のためにと礼拝を月二回とされ、また、だからこそ親睦のために楽しい会食を実施なされる。海外のその地域性に見合った臨機応変の教会活動の実際が、海外宣教を考えるためにも私たちにとって大変示唆に富む経験となりました。



また、およそ二年前に私たち夫婦が、第二期ウィーン宣教の召しに従おうと志した際に、作田銀也兄を代表とする発起人の方々の支援呼びかけに、スイス日本語福音キリスト教会の兄弟姉妹は、主にある深い宣教のご理解のもとに二度まで快く呼応くださりご支援を給わりましたこと心より御礼申上げます。

二年と限定したこのウィーン宣教支援を、作田銀也兄はその目標額を毎月1,000€、二年間で24,000€と定められ、支援活動を継続くださいました。そして、去る１月１９日、作田銀也兄より最終会計報告が寄せられ、すでに目標が達成せられたばかりか、目標を上まわる支援が寄せられたとのこと、ただただ驚くばかりであり、また感謝な思いに満たされた次第であります。

この出来事を通して、主の福音宣教の働きが、単に一個人の、或は一教会の業であるのでは決してなく、尊い主の御血汐の代価によって贖われた主の教会共同体の業であることを痛感させられた次第です。お寄せくださいました宣教支援献金が、どれほど犠牲的なものであったかを想い、そのようなお志しをもって忍耐強く支援くださいましたことに心から感謝御礼申上げると共に、その愛の支援労苦に対して宣教の主御自身が、溢れんばかりに報い賜い、顧み賜わんことを祈るものです。

この二年の第二期ウィーン宣教の期間においても、小生たちの後継となっていただく牧師招聘活動を押し進めて参りましたが、依然として人事が進展しておりません。そこでウィーン日本語キリスト教会が無牧となることを避け、もう二年更に宣教活動をさせていただき、また、相応しい人材が派遣されるよう対処していく所存でありますが、スイス教会の兄弟姉妹もそのためにもお祈りくださいませ。

主が今後スイス在住の邦人の方々のため、更にまた国際結婚をなされた多くの邦人カップルのために貴教会をますます生かしお用いくださいますよう、祝福をウィーンの地よりお祈りいたします。また、どうぞウィーン日本語キリスト教会をも覚えて御加祷ください。

家にある教会によろしく

オランダ南部日本語キリスト教会の設立に参加して

ノルウェーはオスロ日本語集会の金子進兄から

2月3日（日）、オランダ南部にある小さな田舎町で礼拝が持たれた。奉仕を頼まれて出席した聖日が教会設立の是非を問う大切な日とは知らされていなかった。礼拝後に新しい教会設立に関しての署名が促された。3名の署名があれば法的に可能な教会が設立するとのことだった。当日の礼拝参加者は14名であり、客人の3人を除けば11人である。内部事情を知らない私であったが身体全体に緊張感が走った。心の中で3名以上の署名が与えられますように、と祈っていた。

緊張感が安堵に変わった瞬間は11名の署名があった、と発表された瞬間だった。
出席者全員一致の新教会誕生の瞬間だった。
安堵感の中から喜びが湧いてきた。
キリスト者共同体の形を造り、新しい教会設立が全員一致で可決された瞬間に居合わせた喜びだった。「オランダ南部日本語キリスト教会」の誕生である。

集会場はある兄姉の大きな庭にある一軒家で会場には30名、キッチン兼食堂は50名ほど入れる大きさだった。神様はすでに信仰者と場所を備えておられたのだ。私の愛する聖句「神のなされることは皆その時にかなって美しい」が胸いっぱいに広がっていた。

私はこのように家を解放して「家の教会」として捧げている兄姉を日本で、ヨーロッパで多く知っている。そのような教会で奉仕するとき、いつもパウロの挨拶を思い出す。公の会堂を持つことが困難な時代の中で、我が家を解放し集会を持っていたキリスト者の熱い信仰が伝わってくるからである。アクラとプリスカはコリントでもエペソでもローマに移ってもそうしていたようである。

アジヤの諸教会から、あなたがたによろしく。アクラとプリスカとその家の教会から、主にあって心からよろしく。

Ⅰコリント16：19

キリスト・イエスにあるわたしの同労者プリスカとアクラとに、よろしく言ってほしい。～また、彼らの家の教会にも、よろしく。

ロマ書16：3～5

ラオデキヤの兄弟たちに、またヌンパとその家にある教会とに、よろしく。

コロサイ　4：15

キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキポ、ならびに、あなたの家にある教会へ。　ピレモン1：2

オランダの南部に新しい「家の教会」が誕生した。初代教会のように、そこが伝道の拠点になって多くの実を結ぶことを願って止まない。神様の豊かな祝福がありますように、と祈らされる。

デボーションがもたらす恵み

原しのぶ
スイス日本語福音キリスト教会会員

２１年間のいただいた恵みの一つ一つはわたしにとって小さな宝石のようなもの。こころの中に投げ込まれ、きらきらと輝きつづけ、積もりつづけます。そんな宝を思いつくまま書き出してみました。

神がどんなお方かさらに知ることができます。神の息吹がわたしのたましいに吹き込まれ、新鮮なもので満たされます。人との関わりで問題があるときにはその人の非よりも自分の至らなさを示され、わたしを悔い改めに導かれます。

そのため、わたしのうちに平和をもたらしてくれます。神がわたしをどんなに愛してくださっているかを知り、わたしのセルフイメージが高められます。わたしは何のために生きているのか、わたしはだれなのかを知ることができます。

ですから、人と比較することも、優越と卑下の間をさ迷うことも無くなります。その結果、自分の賜物が何なのか気づかせてくださり、賜物を主のため用いようと思わされます。

主の栄光は人を通して現されることも知り、小さき者を励まされます。神と自分の思いの、大きな溝を埋めるための自分の負うべき十字架はなんですかという思いが与えられます。

十字架に従ったキリストのようにわたしにもそんな従順をくださいという祈りが与えられます。麗しい真理を求める気持ちがさらに強められます。新約聖書と同様に旧約聖書も大好きになります。見えない将来を信頼できる主に委ねることを教えてくれます。

すべての困難や艱難も主の愛のご計画のうちにあり、すべてのことが時にかなって美しいことを知ります。死後のことに恐れがなくなります。永遠のいのちが与えられていますから。難関にも立ち向かう勇気と動機が泉から水がどくどく湧き出るように与えられます。

不可能を可能に出来るお方が共にいてくださることを確信できますから。そしてこれらの恵みを共に分かち合うことが最高の喜びです。

みことばの光購読係より

聖書同盟の「みことばの光」という冊子は全聖書を５年間で通読でき、毎日の聖書箇所をデボーションしていくときの導き手となる読み物です。

今年から９人の新しい購読者が与えられ、全部で１７冊の購読者の方々の中には仕事が多忙の方、諸事情で教会に集えない方、幼い子供さんをお持ちの方など、立場や状況もいろいろですが、共通していたことは「聖書を読んでいこう！！」とみなさんが真剣に決心されたことでした。

私たちが、教会が聖霊の息吹によって、日々新しく造り変えられるために、みことばを生活のどまんなかにしていけるよう、兄弟姉妹と同じ箇所を読んでいける喜びと共に励まし合い、続けていけたらいいなと思っています。

購読のお問い合わせは原しのぶまで
shinobu.hara@gmx.de

スイス教会でよく使われているデボーション誌

聖書同盟から毎月出版されている６０年の歴史をもつデボーションガイドで、スイス教会の中で最も多く利用されています。２０１３年１月から聖書通読５年サイクルがスタートしました。電子版も利用できるようになりました。
http://homepage3.nifty.com/su/SUpage.html

マナ　mannaは、いのちのことば社から出ているデボーションガイドで、聖書理解が深まる「学びのヒント」「解説」等の豊富な内容が特徴で、３年間で聖書通読ができるようになっています。
www.wlpm.or.jp/manna/

デイリーブレッドは、１９５６年に米国で発行され、世界中で一千万人が愛用するデボーションガイドで、英独仏日と多くの言葉に翻訳され、それぞれの母国語でデボーションできます。http://japanese-odb.org/